

も港湾改良工事があるが数量が限定されている。

【土砂採取】

【県内全域】

採掘量は全体的に昨年より約14%減、引き続き県内全体の骨材需要は減少傾向が著しい。

地域的には、骨材需要が悪化の一途を辿っているところや需要が今後全く見込めないところが大半。一部には、需要動向が年末に向けて上向きになってきているところも見受けられるが、来年、新年度の状況は地域柄の出荷となりそうである。然程上がりそうもない。

非製造業

【総合卸売】

【千葉県・東京都】

【日用雑貨】厳冬の影響で使い捨てカイロの出荷が好調（前期比約15%増）【酒類飲料】業務用のビール、洋酒、日本酒とも出荷低調。ノンアルコール飲料は前年並。

【食肉卸売】

【千葉市他】

牛・豚共に、枝肉価格が好転。

【建築材料卸売】

【県内全域】

新政権への期待で、心理的には好転。補正予算、公共事業挺入れ期待、金融緩和での資金余力で倒産が当面免れる心配。典型的内需産業であるため、世界経済の流動化による影響は比較的小さいと想定。

円高の恩恵で原燃料が安くなりコストが好転。

【自動車解体】

【県内全域】

政権交代のタイミングで、為替が円安に振れたことと、スクラップ価格が持ち直したことが好材料だが、車両の動きは鈍い。

【乾物卸売】

【県内全域】

消費低迷状況は変わらない。新海苔の入札相場は、前年に比べ全国的に上物が弱含み。

「海苔購入金額日本一ありがとうキャンペーン」第1弾が終了。集計の後、効果分析を行う予定。

【総合卸売】

【茨原】

暮れの商戦も良くなかった。

【小売】

【柏】

気温の低下と共に、見切りに入った冬物衣料品を中心に売れているが、高額商品の動きは良くない。見切りに入る時期が年々早まり、収益状況は良くない。

【電気機器小売】

【県内全域】

11月に引き続き12月も大変厳しい。ただ先月より白物が動き出した。LED照明、エアコンが良く売れた。

【青果小売】

【千葉】

12月前半は、安値が続いていたが、後半に向けて高値となり、年

末商戦が戦いにくくなった。その結果、収益も取りきれなかった。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】

相場は年末年始にかけ下落傾向で緩やかな相場変動となり、需要期の2月頃までは影響が続くと思われる。今後は、タマ不足も和らいでいくものと考えられる。中古車輸出は依然好調に推移、前年同月比でも増加している。

【小売】

【東金】

寒かったので冬物グッズの動きは良かった。食品等は若干減。ファッション関連は重衣料が売れていた。クリスマスが休日だったので、売上減であった。年末も年々、正月準備消費が減ってきている。

【小売】

【野田】

寒さを迎え冬物衣料に動きがあったが、前年比を上回れなかった。

【印鑑小売】

【県内全域】

営業売上は、昨年をオーバーするが、店売が年賀状印刷減少に伴うマイナスにより全体では微増。

【建設揚重】

【県内全域】

稼働率は好調が続いている。この状況がいつまで継続するかは不明。スポットは価格も上昇してきた。

【遊覧船】

【鴨川】

秋以降、前年比より落ち込んで

おり、先行きが見えない。打つ手がなく、手をこまねいている状況。

【一般廃棄物処理】

【千葉市】

前月よりも状況は良いものの、繁忙期にもかかわらず、前年同月同様、大きく売上増加につながるような業務量にはならなかった。

【学習塾】

【県内全域】

冬期講習の受講者数も前年度並。

【ソフトウエア】

【県内全域】

震災のあった前年に比べ収益は多少改善されているようであるが、企業間格差は広がっているように思える。

【建設】

【県内全域】

当連合会加入組合員の受注額は、5,411百万円であった。これは前月比で1,429百万円の減少、前年同月比でも675百万円の減少。

4～12月までの受注額は、67,360百万円、これは前年同月比で32,689百万円の増加であり、通年では増えている。

【貨物運送】

【野田】

前月比は改善したものの年末らしさの感じない年だった。

【輸出入】

【県内全域】

前月、前年同月は微増しているが、好景況感はない。